

令和2年度第3回（第69回）CPDプログラム委員会議事録

日 時：令和3年3月22日（月）13:00～14:30

場 所：Zoomによるウェブ会議

出席者（順不同・敬称略）

高木真人委員長、湯本公庸委員、大和田淳委員、原田克之委員、木下泰三委員、植山淑治委員、八坂保弘委員、安部田貞行委員、岩田敏委員、高田英治委員、塩見誠規委員、矢内悠介委員、尾崎章幹事

配布資料

- 資料 3-1 令和2年度第2回（第68回）CPDプログラム委員会議事録（案）
- 資料 3-2-1 第31回（2020年度第4回）CPD運営委員会議事録
- 資料 3-2-2 第32回（2020年度第5回）CPD運営委員会議事録案
- 資料 3-2-3 広報委員会_資料
- 資料 3-3 2020年度第2回CPD協議会全体会議議事録（案）
- 資料 3-4 第2回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム開催報告
- 資料 3-4【別紙】：第2回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム開案内
- 資料 3-5-1 次年度の活動方向について
- 資料 3-5-1【別紙】第10期技術士分科会における技術士制度改革の検討の方向性（案）
- 資料 3-5-2 広崎前会長ご提示【論点：分野横断的V字型技術者育成について】
- 資料 3-6 CPD協議会リクページのメンテナンス

- 参考資料 2020年度CPD協議会役員・委員名簿 2021.3.2
- 参考資料 2020年度CPD協議会 各委員会名簿(2021.3.16)
- 参考資料 2020年度CPD協議会 各委員会名簿 CPD(2021.3.16)
- 参考資料 2020年度CPD協議会 各委員会名簿 ECE(2021.3.16)

議事

1. 前回議事録の確認
 - 資料3-1により、前回の議事録確認を行った。特段の修正・コメントは無く、本議事録は確認された。
2. CPD協議会運営委員会（第31回、第32回）報告
 - 資料3-2-1、3-2-2、3-2-3により、CPD協議会運営委員会の議事内容が報告された。
3. CPD協議会全体会議（2020年度第2回）報告
 - 資料3-3により、CPD協議会全体会議（2020年度第2回）議事内容が報告された。

4. 第2回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム開催結果

- 資料3-4および同【別紙】により、第2回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム開催結果の説明があった。
- 昨年開催予定であったシンポジウムはコロナ禍のため中止となったが、当日関係者が会場に集まり意見交換を行ったので、これを第1回とし、今回、第2回を開催した。
- 当日の資料は日本工学会のホームページに掲載されている。

5. 次年度の活動方向について

- 資料3-5-1および同【別紙】により、CPDプログラム委員会の次年度の活動方向について、委員長から説明があった。
- 技術士制度改革に向けた国や技術士会への協力については、文部科学省科学技術・学術審議会第10期技術士分科会における検討報告書では、技術士のCPD（継続研さん・更新制の導入）や若手技術者の研鑽（日本工学会のCPDに含まれる）における学協会との連携が必要とされており、日本工学会の名前もステークホルダーとして明記されている。今後、技術士補制度見直し・IPD制度の充実・確保などの検討の進捗を見据えながら、その協力方法を検討していきたい。
- CPDガイドラインの見直しについては、第2回世界エンジニアリングデー記念シンポジウムの議論（特に第一部「技術者の役割・未来」）でも多くの示唆が得られており、これらの観点も踏まえて検討していきたい。
- これに関連して以下の質問があった。
 - 機械学会がCPD協議会から退会したが、復帰するという話はないのか。
→今のところはない。シンポジウム登壇者の山本先生は機械学会の教育関係の委員長をされており、日本工学会／科学人材育成コンソーシアムの委員でもあるので、機会をみて相談したい。また、退会された他の学協会とのコミュニケーションも課題である。
 - 電気学会ではCPDの日本語訳として「継続研鑽」を使用しているが、日本工学会のガイドラインでは、継続教育、継続学習、継続研鑽をまとめてCPDとしている。このあたりの関係は明確になっているか。
→ガイドライン見直しの中で考えていく必要がある。

6. その他

1) 分野横断的V字型技術者育成について

- 資料3-5-2により、広崎前会長ご提示の題記論点について、説明があった。現在ECEプログラムを実施していない学協会においても、本論点のような視点で、また、学協会間の連携で、新しいプログラムの検討をすべきであるという趣旨であると考える。
- これに関連して以下のコメントがあった。
 - ターボ機械協会では、会員サービスとしての上級者向けのプログラムを2-3年前か

ら検討し、試行も行っているが、継続して行うにはハードルが高く、まだ実現はしていない。実学を組み入れようとして大学の実験設備を借りたりシミュレーションを行ったりしたが、講師側の負担も大きく、コロナの影響もあり中断している。実現しても ECE プログラムとしてノミネートするのは未だ先になると思われる。

- 本件は、次回の運営委員会にも報告し、可能なものについては検討を進める。

2) CPD 協議会リンクページのメンテナンス

- 資料 3-6 により、CPD 協議会ホームページのメンテナンス状況を報告した。
- 電気学会のリンクについて再度確認を行う。→後日、問題ないことを確認した。

3) その他

- 日本の工学会全体の人材育成の会議を、4年に一度の世界会議（WE C）の間に開催するとの提案については、基盤強化委員会で検討している。今年がその中間年にあたるので、早くとも4年後を目指すことになる。日本工学会単独では荷が重いので、学術会議や日本工学アカデミーと協力すべきとの意見が出ている。
- 次年度からは、協議会全体にかかわる議論もスタートしていきたいので、CPD プログラム委員会に参画していない CPD 協議会会員学協会にも参加を求めている。（オブザーバーでも良いので）
- 次回については、別途日程調整を行う。

以上